



令和8（2026）年9月28日

校長だより Vol.9

「同じ星を見て歩いていきましょう！R8①」 ～先生方の変化が、西高を動かす～

「おはようございます！」 から始まる西高の小さな革命

今年度の学校経営計画に「あらゆる場面で礼儀正しい挨拶を基本として」という一文を加えてから数ヶ月。最近、私が心から嬉しく思っていることがあります。それは、朝の職員室の空気感です。職員室に入ってくる先生方の「おはようございます！」という声、そしてお互いに敬意を払い合いながら、「今日も一日がんばりましょう」という思いが込められた爽やかな挨拶が、明らかに増えました。「生徒に変化を求めるなら、まずは私たち大人がそのお手本になろう！」まさに率先垂範…。「同じ星を見て歩こう！」という言葉のもと、先生方が自ら行動様式を変えて（進化させて）くださり、爽やかな挨拶と明るい表情で始まる一日の積み重ねが、間違いなく今の西高の活気を作り出しています。

次のステップ：「生徒の主体性」を育む手立て

先生方の素晴らしい変化を、次は生徒たちの「主体的な成長」へと繋げていきたいと考えています。生徒たちに「感じが良い挨拶」や「主体的な行動」を身につけさせるための最も効果的な手立ては、決して大仰なことではありません。

「気づき」を認め、褒める：先生方が魅せてくれた素晴らしい挨拶を、生徒が真似てきた瞬間に、「今の挨拶、すごく爽やかで気持ちが良いね！」と声をかける。

小さな役割と任せる場面を増やす：日常のちょっとした場面で「君に任せよう！」と言え、生徒自身に選択・決定させる機会を作る。

先生方が見せてくださっている「相手への敬意」を日常の指導でも生徒に投げかけることで、生徒は安心して一歩を踏み出し、主体性を伸ばしていきます。

西高の「いま」を、もっと外へ届けよう！ ～広報は全員が主役～

先生方のご尽力により、現在の西高には自慢したい魅力や活気が溢れています。しかし、この素晴らしい変化や生徒たちの輝きを、校内だけにとどめておくのは本当にもったいないと感じています。

「西高の良さ」を内弁慶にせず、学校HPやInstagramなどを活用して、地域や中学生にどんどん届けていきませんか？ 広報活動は、決して一部の担当教員だけのものではありません。

部活動の日常の練習風景や小さな成果

クラスでのあたたかい取り組みや工夫

行事に向かって生徒たちが熱中している姿、等々

シャッターチャンスは実に豊富にあります。

部活動、クラス、行事に携わるすべての先生方が、

「うちの生徒のここが素敵なんです！」

「今日の西高はこんなに活気がありました！」と発信する意欲があれば、熱量は必ず外に伝わります。

生徒たちの頑張りや先生方の情熱を社会に発信することは、生徒たちの自信になり、さらなる主体性を引き出す大きな力になります。まずは1つの写真、短い一言から構いません。先生方の温かい視線

で切り取った「西高の魅力」を、ぜひ一緒に発信していきましょう！





ちょっと一息！

韓国ドラマ『未生（ミセン）』が教えてくれたこと

突然ですが、みなさんは『ミセン（未生）』という韓国ドラマをご存じでしょうか。

作品公開から10年余りが経ちますが、時代を超えて幅広い年齢層の心に響く普遍的な人間ドラマとして、今なお深いメッセージを持ち続ける名作です。ちょうどコロナ禍の頃、私はある知人の勧めで観始めたのですが、ものの見事にハマってしまいました。

タイトルにある「未生」とは、囲碁の言葉で「まだ完全には生きていない石（死に石ではないが、完全に生きてもいない状態）」を意味します。

物語の主人公、チャン・グレは、幼い頃から天才少年として将来を嘱望されていた囲碁の道が、父親の急死によって閉ざされ、人生が一変してしまいます。コンビニのアルバイトや運転代行を掛け持ちするその日暮らしの生活を経て、26歳になった彼は、知人の紹介で一流大手商社の契約社員として働くことになります。

社会人経験が一切ない彼は、容赦ない厳しい洗礼を受けながらも、自分の足で一歩ずつ歩いていきます。その泥臭くも懸命な姿に、私はつい自分自身を勝手に重ね、応援したくなってしまいました。



この作品の素晴らしさは、主人公だけでなく、共に働く同僚や上司までもが、それぞれに抱える葛藤や苦悩と向き合いながら、前を向いて生きている点です。まさに、誰もが社会の中で「未完全な存在」として模索しながら生きている姿を象徴しています。

私たち大人も、決して最初から完璧だったわけではありません。それぞれの道のりで多くの壁にぶつかり、失敗し、その苦い経験を「成長の糧」に変えて乗り越えてきたからこそ、今の自分があります。そういった意味で、登場人物すべての立場に共感できる作品です。

さて、本校では今年度、「あらゆる場面で礼儀正しい挨拶を基本とする」ことを重点目標に掲げています。

4月のスタート以来、先生方が率先垂範して明るく前向きに声を掛け合う姿が増えたお陰で、校内の雰囲気は一段と温かく、活気に満ちたものになりました。

挨拶とは単なるマナーではなく、「私はあなたを尊重しています」という心を届ける最初のステップです。大人が自らの姿勢をもって範を示すことで、生徒たちにも「生きる力」としての挨拶がしっかりと根付いてきていると感じます。

本校の合言葉は、「同じ星を見て歩こう！」です。

生徒はもちろん、私たち教職員も、誰もが今なお成長の途上にある「未生」の存在かもしれません。だからこそ、お互いが歩んできた道のりや立ち向かっている課題を尊重し合い、同じ目指すべき星を見据えながら、共に歩みを進めていきたいと考えています。

生徒たちの未来を照らす道しるべとなれるよう、まずは私たち大人が明るい挨拶と前向きな姿勢で、力強く伴走していきましょう。

